

年間第五主日 2014.2.9

地の塩・世の光

マタイ福音書 5章 13-16節

〔そのとき、イエスは弟子たちに言われた。〕「あなたがたは地の塩である。だが、塩に塩気がなくなれば、その塩は何によって塩味が付けられよう。もはや、何の役にも立たず、外に投げ捨てられ、人々に踏みつけられるだけである。あなたがたは世の光である。山の上にある町は、隠れることができない。また、ともし火をともして升の下に置く者はいない。燭台の上に置く。そうすれば、家の中のものすべてを照らすのである。そのように、あなたがたの光を人々の前に輝かしなさい。人々が、あなたがたの立派な行いを見て、あなたがたの天の父をあがめるようになるためである。」

説教

<はじめに>

2000年まえ、ガリラヤの丘でイエスさまは説教を始めました。そこで、

「あなたがたは地の塩、世の光である」と語ります。私たちにとってこれほどうれしい希望の言葉はないでしょう。この言葉こそ「よい知らせ」、福音です。

<八福の教え>

きょうから四旬節（受難節）をはさんで山上の説教とよばれているマタイ福音書の最初のイエス説教を読み進めていきます。例年ならば5章1節から始まるのですが、今年は主の祝日（先週の主の奉獻）が日曜日だった関係で13節からとなりました。今日のテキストの前にまずは5章のさわりの部分を朗読します。

心の貧しい人々は、幸いである、／天の国はその人たちのものである。悲しむ人々は、幸いである、／その人たちは慰められる。（5:3-4）

このあと「柔和」「義」「憐れみ」「清さ」「平和」「迫害」と八つの幸い

を述べこれらは「八福の教え」と呼ばれています。マタイ福音書のこれらの言葉はキリストの地上での最初の言葉です。いふなれば人類に向けたキリスト最初の重要なメッセージの冒頭となります。

ところで、わたしたちは「心の広い人」とか「心の豊かな人」と言われれば肯定的に前向きに受け取ることができますが、「心の貧しい人」といわれてなかなか喜ぶことはできません。しょんぼりしてしまいます。「心」を直訳すれば「霊」となります。しかし日本語で「霊」というと「ひとだま」だったり「うらめしや〜」になったりしてしっくりきません。「心の貧しい人」とは心の底から貧しい、自分を支えるものがなにもない、神により頼むほかにはなにもない、という意味合いにとれると思います。また「悲しい人」も同じように現実世界に痛めつけられて苦しんでいる人を表しています。「心の貧しい人」が自分を支える力がない苦しみとすると、「悲しい人」は愛するものを奪われる悲しみといえるでしょう。人は自分だけで生きることができません。誰もが愛する人、家族や友人を支えにしています。支えあって生きているのです。しかし、それも儚く奪われます。

そのとき、わたしたちは嘆き悲しみます。イエスはそんなわたしたちに「天の国はその人たちのものである」「その人たちは慰められる」と言います。心が貧しい、悲しい、胸が痛い、それはそうだ、それこそ本当の気持ちだろう。でもあなたがたは「幸いなるかな」「祝福されて」いる。だれが祝わなくてもわたしが祝う、とイエスは言います。イエスがいうからにはこれは本当のことなんです。なぜか。その大元には神がこの世をつくって良しとされた事実があるからです。

神はお造りになったすべてのものを御覧になった。見よ、それは極めて良かった。（創世記 1:31a)

<地の塩・世の光>

しかし人間は墮落しました。地は呪われました。だからこの世は真っ暗です。

穢れきっています。 そんな世界に神のひとり子イエスは派遣され宣言します。 イエスがキリストとして宣言するのです。

「あなたがたは地の塩、世の光である」と。

ガリラヤの丘に集まった群衆の中には弟子もいます。 弟子といってもついさっきまで湖で網を打っていたただの漁師です。 群集の中にえらい議員さんや將軍さまがいたとは書いてありません。

そんなただの人たちに向かってイエスは呼びかけるのです「幸いなるかな」と、そして「あなたがたは地の塩、世の光だ」と。 さて、わたしたちに何ができるのでしょうか、何ができるというのでしょうか。 無力で「心が貧しく、悲しい人」のわたしたちです。

<天の父をあがめる>

「幸いなるかな」という言葉には力があります。 イエスの「幸いなるかな」ということばを受けて喜びほっとする。 そして喜んで、すすんでこの暗闇の地上で生きる、そうするとそこに光がポツと灯る。 暗闇の地上で中で光り輝くものになるのです。 イエスの言葉には力があります。

つづいてイエスは塩は塩つけをなくしたら終わりだといえます。 光を柀の下に置くな、といえます。 ひとり一人にたいする励ましであり戒めでしょう。 そしてそれは信仰共同体、教会にとっても同じことです。 儀礼だけ、説教だけ、聖書だけ、そういうものだけが残って肝心の塩の効き目がなくなってしまえば、それは踏みつけらるだけだ、世間に無用なものだとイエスはいいます。 ともし火を柀の下に置くとは教会の中だけに光を閉じ込めてしまうことでしょう。 そっちは暗いよ、こっちにすれば明るいよ、柀の下に置くなとはこういうことです。

2000年前のガリラヤの日と同じようにイエスは心の貧しい、悲しむわたしたちに「あなたがたは地の塩、世の光である」と宣言し、希望を与えてくれます。 人類に向けた最初のメッセージを、イエスのみ言葉をこのように結び

ます。

あなたがたの光を人々の前に輝かしなさい。人々が、あなたがたの立派な行いを見て、あなたがたの天の父をあがめるようになるためである。(5:16)